

第5 地産地消・食育推進のための普及活動

1 活動の重点事項

- (1) 地域特産物を活用した商品開発
- (2) ニーズに応じた地場農産物の安定供給
- (3) 地場農産物の流通活性化と食育の推進

2 活動の経過と実績

(1) 地域特産物を活用した商品開発

各生産部会では農産物のPRと規格外品の有効活用のため加工品開発への関心が高く、JAや生産部会と連携し、試作等に取り組んだ。(かぼちゃ規格外品の活用法の検討など)また、新たに加工用品種の契約販売による加工品の製造が取り組まれた(加工用トマトによるケチャップ製造)。

(2) ニーズに応じた地場農産物の安定供給

ア 市場やJAの直売所からの地元農産物のニーズは多岐にわたるが、共販品目以外の品目については、需要に供給が追いついていない。そこで、平成25年度から実需者と生産者のマッチングを行い、共販品目以外の品目について若手生産者への作付け推進と栽培指導に取り組んできた。

イ 新規品目に関しては生産者が限られるため、供給量が安定していない。生産者数を増やすには他品目との競合がしばしば起こるため、新規品目をマッチングする場合は、若手生産者に限らず、実需者と生産者が共に満足できる人選が必要である。

(3) 地場農産物の流通活性化と食育の推進

ア 平成23年度より丸果小松やJA、市町、南加賀農林で構成する南加賀地区地産地消推進協議会では、地場農産物の流通を活性化させるため、南加賀地域の野菜を「なんかがいい野菜」と名付け、集客力のある地元スーパーや量販店の店頭で地場野菜の販売コーナーを設置する取り組みを行っている。

イ 地元農産物に対する理解を促進し学校給食やスーパーでの有利販売につなげるため、協議会では、管内の各小中学校の栄養士を対象に、管内の主要な産地の見学会を実施し、地元農産物のPRを行った(12月5日)。また、教職員や学校給食職員などの研修会で協議会の取り組みや地域で生産される野菜について



12月5日 小松・能美学校給食関係者の産地見学会
(左：加賀丸いも選果場を見学、右：JA施設内で日向源助大根を紹介)

て紹介を行い、活動への理解促進を図った（10月12日、1月5日、2月2日）。

ウ 南加賀地区管内の小学校等（延べ31カ所、約2,000名）を対象に、なんかがいい野菜食育支援金を活用した食育活動を行った。加賀市では、ブロッコリーの食育講座にブロッコリー生産者も積極的に参加し関係機関一体となった食育活動が定着しつつある。小松市ではトマト等の収穫体験や選果場見学など、能美市では野菜栽培に関する食育教室やなんかがいい野菜の歌を活用した食育活動が行われた。



5月17日 保育園児のトマト定植体験